

磐城時報

五日刊 日刊
編輯部 磐城時報編輯部
印刷部 磐城時報印刷部
發行部 磐城時報發行部
電話 磐城時報電話
地址 磐城時報地址

井上組頭を始め 功勞者を表彰

平消防組表彰授與を機会に けふ町會で決定

平消防組の榮譽ある表彰を受けが起り、その機会に組頭井上茂作氏を始め永らく消防組に勤続功勞あつた組員を表彰しやうといふ企てが町會議員の間に起り、列項の如く本日開かれた町會に於て、野崎議員から「人事表彰に對し緊急動議を提出する」として議長井上茂作氏の退席を求め、組頭井上茂作氏表彰の件を提案した。之に對して三十年以上勤続組員に對しても町會の議決を経て、青沼町長から表彰すべしとの案が之に對して三十年以上勤続組員に對しては三組の銀盃を記念に贈ることになつた。

中島部落復興に 全村擧げて援助

大火に屈せず建設へ…… 焼土を壓する烈々の意氣

大野村では過般の大火で全滅した大野中島部落復興のために此程正式に村會の決議をもつて、罹災一月に對して二週間に二回のバラツク建築用材と之に要する屋根瓦と大工手間賃廿八人分を支給すること。決定する一方隣接の白岩、中島、玉川三部部落共有林の伐材を開始したので悲觀のどん底に突き落された罹災民も全村あげて

町會採める 汚物掃除費の補助

補助で一波瀾

町會は五日午前十時から開き、十年度追加更正豫算、博覽會祝賀會經費七百圓支出、を付議原案通り可決したが、最後の北目、胡麻澤區の汚物掃除に費補助交付に就ては異議百出した。容易に纏らなかつたが、休議し合計三十二萬圓であつたが、今年協議の結果結局請負期間を一は幾分減額されるらしい。

豫想通りの好況 春駒せり二割高

最高は加藤丈夫氏の五百圓 中寺駒糶市終る

好調を豫想されてゐた石城郡産馬組合中寺駒糶せり市は去月三日から三日まで五日間に亘つて開市された。出場頭數二百六十八頭、總賣上高一萬九千三百八圓で最高五百圓、最低三十六圓、平均七十四圓九十五錢であつた。前年に較べると總賣上高で三千八百七十七圓、平均十二圓五十六錢高で豫想通り二割高の好成績を収めた。なほ優良馬所有者は左の如く一等は加藤丈夫氏所、二等は内洋混種馬五百圓であつた。

失戀と病苦を悲觀 十八娘の自殺

硝酸銀を嚥下して

磐間村字八幡町橋本權治郎長女宮字宮澤磐城炭坑吉田幸吉(一八)は昨春小野新町(三三)は三日午前八時半ごろ同礦坑内作業中炭車の下敷となり即死した。

町立四學校に 火災保険

昨年より減額

平商業學校及び町内三小學校の火災保險契約に就き平町では十日午後一時から町役場會議室に火災保險代理店を招き協議する。なほ前年度の契約高は四校合計三十二萬圓であつたが、今年協議の結果幾分減額されるらしい。

爆藤を盗む 奇怪な坑夫檢舉

内郷村警署炭坑高坂火藥庫から

二日夜ダイナマイト百本、雷管數十本を窃取したものとあるを發見届出により平署で犯人捜査した結果警署炭坑高坂山幸吉(二四)の所爲と判明四日檢舉共犯關係を追突中であるが他に流用密賣した嫌疑あり嚴重取調を續けてゐる。

犯罪・二重奏

暴れ込みの騒ぎ最中 同僚の虎の子を盗む

内郷村大字綴日雇業似島勝治(亂入暴行し大騒ぎをしてゐるう)郡山市小原町安藤興三(素ばしといふ石田は同僚似島の虎の子の時金通帳を掻き取り即夜平署に檢束された)炭車下即死 内郷村大字

徒弟數名 至急募集

至急募集 委細面談 加納活版所 自動車、御用ナラ 何デモ御仰せ付願 ヒマス

娘の家出

平の花柳界に潜伏? 栃木縣那須郡湯津上村政合スガ(二四)は去る二月末寄寓先の石川郡石川町鈴木静借方が無断家出した。

木村技師 港灣調査

縣土木課木村技師は五日から十二日迄郡内港灣調査を行ふ。

前 和昭

電話 三四三三 三四三四 三四三五 三四三六 三四三七 三四三八 三四三九 三四四〇 三四四一 三四四二 三四四三 三四四四 三四四五 三四四六 三四四七 三四四八 三四四九 三四五〇 三四五一 三四五二 三四五三 三四五四 三四五五 三四五六 三四五七 三四五八 三四五九 三四六〇 三四六一 三四六二 三四六三 三四六四 三四六五 三四六六 三四六七 三四六八 三四六九 三四七〇 三四七一 三四七二 三四七三 三四七四 三四七五 三四七六 三四七七 三四七八 三四七九 三四八〇 三四八一 三四八二 三四八三 三四八四 三四八五 三四八六 三四八七 三四八八 三四八九 三四九〇 三四九一 三四九二 三四九三 三四九四 三四九五 三四九六 三四九七 三四九八 三四九九 三四一〇〇

平町地方の花柳界に身を沈めてゐるらしいから 鈴木静借が五日平署へ搜索願 平・田町 イワササロソ 電話三五二

徒弟數名 至急募集 委細面談 加納活版所 自動車、御用ナラ 何デモ御仰せ付願 ヒマス

前 和昭 電話 三四三三 三四三四 三四三五 三四三六 三四三七 三四三八 三四三九 三四四〇 三四四一 三四四二 三四四三 三四四四 三四四五 三四四六 三四四七 三四四八 三四四九 三四五〇 三四五一 三四五二 三四五三 三四五四 三四五五 三四五六 三四五七 三四五八 三四五九 三四六〇 三四六一 三四六二 三四六三 三四六四 三四六五 三四六六 三四六七 三四六八 三四六九 三四七〇 三四七一 三四七二 三四七三 三四七四 三四七五 三四七六 三四七七 三四七八 三四七九 三四八〇 三四八一 三四八二 三四八三 三四八四 三四八五 三四八六 三四八七 三四八八 三四八九 三四九〇 三四九一 三四九二 三四九三 三四九四 三四九五 三四九六 三四九七 三四九八 三四九九 三四一〇〇

各種製造發賣元 鈴木道太郎商店 電話 一四四番 振替東京六一二〇一

公告

當會社の株式は目下失権株競賣手續中且臨時株主總會開催致すに付來る昭和十年五月二十日迄株式の名義書替を停止仕候條御承知相成度此段及公告候也

昭和十年四月五日

平町大工町
株式 平魚市場
右取締役社長 金澤春吉

株主各位殿

吉岡家所藏

開運大黒天參拜會趣意書

現平刑務支所長吉岡董太郎氏は京都府丹後の人、同家は平家の末裔にして地方名門を以て鳴れり、同家に祖先より傳來せる大黒天の靈像あり。家訓には高野山開祖弘法大師の御作にして子々孫々之を守護禮拜すべき遺訓に基きて同氏官職を帶各地の勤務先に捧持して禮拜怠り無き者なりし。然るに吾等同志奇縁有りて御尊像を拜するの幸運に浴し其崇高にして福徳圓滿なる御姿に接し自ら頭を垂るゝのみならず。尙其道專門家の鑑定を受けるや期せずして其彫刻の非凡にして木質、刀法、塗料等より按ずるに少くとも千年以上經過し國寶として充分なる優値ありと斷せり。依つて直に御尊像を謹寫し目下國寶指定の運動中なり。尙ほ同御尊像は約二百數十年前大石良雄殿與方の御參拜あり且禮堂建立の爲寄進せる有舊幕末には西園寺公も東征の折一泊し尊像に祈願禮拜せるの事實あり、詳細は同氏より當日御説明ある事と信じ居るも茲に意を同じくする會員諸氏と來る七日吉日を以て禮拜會を備はし一は國家の興隆を祈念し一は吾等信者の家運子孫の長久を祈り禮選を各自と共に祈願せんとする者なり。願くば諸氏奮て御出席あらん事を切望す。

右趣意に御賛成の上參拜御希望者左記御承知の上六日午後四時まで御申込み下さい。

- 一、會場 平町湯殿山社務所
- 一、時 日 四月七日(日曜日)午前十時 (晴雨に不拘決行)
- 一、會費 金一圓 (晝食付)
- 一、申込場所 平町二丁目 江島屋洋服店

平町二丁目 江島屋洋服店
平町紺屋町 警城時報社

吸入用酸素 純度 99%

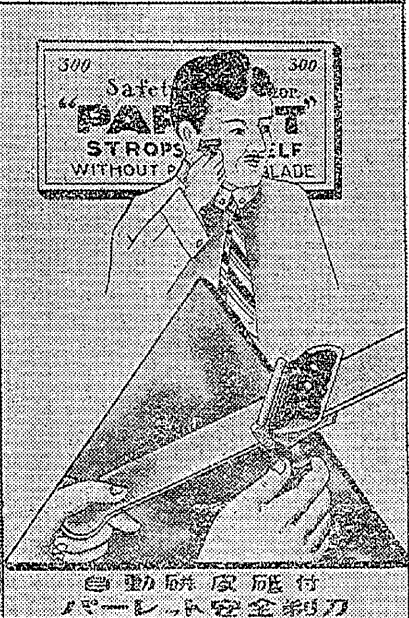
● 秤ノ取緒・鍾糸・修覆致シマス
● 寫眞機 材料一式
● 寒暖計

關内藥局

電話四〇番

化粧品、理髮器具一式

安 全 剃 刀
全 衣 鏡
自 動 研 磨 皮 膚 付
付 磁 磁 研 磨 自 動 研 磨 皮 膚 付



芳香園理髮器具店

平驛前(電話六八〇番)

時計眼鏡特賣

御入學 御進級 記念正札の一割引廉賣
修繕良く、早く、正確に……

期間 四月一日—卅日迄

平町驛前通り三丁目

星野時計店

牛豚肉

平町田町
三三三三屋
電話三三三番

二葉印刷所

平町仲町・電話一九三番

入藏省允許

無毒炭

共存共栄

断然群ヲ抜ク

内臓外科 泌尿科(腎臓、膀胱)
花柳病科 尿道科
皮膚科

外科一般

平町鎌田町(電話二七九番)

白土外科醫院
白土 徳 彌

病室完備
自炊の便あり

學生徒募集

地方唯一の洋裁専門學校
新學期 四月五日
申込は今! 今が好期
氣安くぬへる個人的教授

警城女子洋裁專門學院

ミシン使用無料、材料貸與
本校は學費のイラヌ學校
校則二錢 新設—夜間教授、寄宿舎完備す
切手要ス
平町二丁目二番地

夜 間 診

胃腸病科 內科
花柳病科 性病科
泌尿器病科 皮膚科
肛門病科

門 專

院醫科性病胃腸村松
(番七〇一電 平町南町)

療

木炭代用

一月星豆炭 一八キロ
金八拾錢 壹袋

平驛前
阿部石炭商店